



第4期横浜市地域福祉保健計画最終評価【概要版】

推進の柱1		地域福祉保健活動推進のための基盤づくり
主な取り組みの 成果	柱1-1 地域力（地域の強みを生かした課題解決力）の向上に向けた支援の充実	<p>各区で工夫して課題把握を行い、すべての区で第4期地域福祉保健計画（区計画・地区別計画）が策定されました。地区別支援チームなどを対象とした研修会を実施し、各区で支援者として必要なスキルを身につけるための取組が行われています。</p>
	柱1-2 地域福祉保健活動推進する関係組織・団体への支援	<p>地区連合町内会や地区社協では、そのネットワーク機能を活かし、コロナ禍で変化した困りごとの把握や、その解決に向けた検討など身近な地域活動への支援が行われています。また、企業やNPOなどの福祉保健分野以外の主体と連携した地域課題解決のための仕組みづくりが広がっています。</p>
	柱1-3 誰もがお互いを受け入れ、共に支え合う意識の啓発と醸成	<p>幅広い対象に向けた普及啓発活動や福祉教育等の多様性理解のための取組に加え、子どもの居場所づくりや生活困窮世帯への支援、外国籍の子どもと地域の交流など、日常の中で緩やかにつながる機会や場が増えています。また、個別課題を地域の課題として受け止めていくために、地域に必要なことやできることを考える場が生まれています。</p>
	柱1-4 地域福祉保健活動の推進のための人材育成と環境づくり	<p>研修や学習会などを通じて、民生委員や地域活動者が安心して活動できる環境づくりに努めました。多様化する地域課題の共有や見守りの仕組みづくりに向けて、支援機関や地域活動者・団体等がコーディネート機能を発揮し、少しずつ多様な主体が連携した取組が始まっています。</p>
	課題 (必要な取組)	<p>【柱1-1】地区別支援チームのメンバーが区の特性を理解し、共通認識を持つことのできる研修等の機会づくりが必要です。 【柱1-2】地区連合町内会や地区社協等と企業、NPOなどの団体が連携した制度や枠組みを超えた取組検討の場づくりが必要です。 【柱1-3】国籍・性別・障害など様々な立場の人が日常的につながる機会や場づくりが必要です。 【柱1-4】複雑化、多様化する地域課題に対応するため、支援機関や関係機関・団体のコーディネート機能の強化が必要です。</p>
市地域福祉保健計画 策定・推進 委員会意見	<p>【柱1-1】区ごとに地域支援チームの役割発揮に違いがあり、充分機能していない区については地域支援研修など区の特性に合わせた強化策を検討していく必要があります。 【柱1-3】住民主体によるより身近な地域での交流・居場所づくりの更なる促進が必要だと思います。 【柱1-3】若い世代を地域活動に呼び込むために、企業とも連携したアプローチが必要です。 【柱1-3】地域でボランティア活動ができる人が減少していることが気にかかります。働きながら地域で活動できる工夫が課題です。 【柱1-4】コロナ禍で人材育成のための研修・学習の機会が不足していたため、今後はできる限り増やしていく必要があります。 【柱1-4】ボランティア等に気兼ねなく参加できる仕組みづくりや、民生委員の活動をサポート・フォローする体制づくりが必要です。 【全体】より身近な地域での活動の重要性が共有され、実践が進められていることが確認できました。</p>	
総合評価		
	<p>◎：計画以上の効果が表れている ○：おおむね計画通りだが更に力を入れて推進する必要がある △：計画通りにすすめるためには、今後取組内容や目標を見直す必要がある</p>	

推進の柱 2

身近な地域で支援が届く仕組みづくり

<p>主な取り組みの 成果</p>	<p>柱2-1 見守り・早期発見の仕組みづくり</p> <p>民生委員の見守りやサロン活動に加え子ども食堂や移動販売等活動の場を通して幅広い対象者を意識した地域主体の見守りの仕組みづくりが進んでいます。 地域福祉保健計画地区別計画推進会議、住民支え合いマップの作成・更新の場など、様々な場や機会を通じて、地域住民と支援機関の情報共有が進み、見守り意識の醸成が進んでいます。</p>
	<p>柱2-2 連携・協働による地域の生活課題を調整・解決する仕組みの充実</p> <p>地域ケア会議等各分野の会議が開催され、情報共有や課題解決のための取組について、話し合いが行われています。また、複合的な生活課題についての検討では、分野を超えた様々な関係機関・団体や地域住民が参加し、協働した取組につながりました。</p>
	<p>柱2-3 身近な地域における権利擁護の推進</p> <p>成年後見制度利用促進の中心的な役割を担う中核機関が整備され、権利擁護支援の地域連携ネットワークの推進をめざした様々な取組が行われました。また、全区でエンディングノートを活用した普及啓発が取り込まれるようになり、遺言書作成や相続等終活とも併せた講座等が実施されています。</p>
	<p>柱2-4 幅広い住民層が取り組む地域の健康づくり活動の充実</p> <p>世代を超えた身近な地域での健康づくりの活動が、保健活動推進員等様々な主体によって広がり、自分が健康と感じる住民が増加しました。また、特定健診とがん検診の受診率の向上や、健康寿命の延伸が見られました。</p>
	<p>柱2-5 支援が届く仕組みをつくり、機能させるための環境づくり</p> <p>住民の生活により身近な地域で支援が届く仕組みをつくり、機能させるための環境づくりとして、地域ケアプラザや地域子育て支援拠点などの整備が進みました。 様々な分野の会議において、見守りや早期発見・早期対応についての共有を行うことで連携をはかるとともに、研修などでの普及啓発も取り組まれています。</p>
	<p>課題 (必要な取組)</p>
<p>市地域福祉保健計画 策定・推進委員会 意見</p>	<p>【柱2-1】自分から支援を求めることが難しい人が、地域支援を受けにくいことが課題です。 【柱2-1】【柱2-2】障害者や高齢者が適切なサポートを受けながら社会参画できるような体制を整えることが必要です。 【柱2-2】複合的な課題への対応を行政や地域ケアプラザ、専門職、さらには地域住民など様々な立場の人を交えて検討することが日常的になっていると感じています。 【柱2-2】連携・協働による地域の生活課題を調整・解決する仕組みの充実が必要です。 【柱2-3】成年後見制度の利用促進に関しては、普及啓発に加え、後見人等の支援力向上のための研修（支援者支援）が必要ではないでしょうか。 【柱2-4】「8050問題」は家族会において喫緊の課題です。フレイル対策の周知啓発が更に求められます。 【柱2-4】身近な地域でシニア層だけではなく、若い世代に対しても健康についての取組を行ってもらえたらと思います。</p>
<p>総合評価</p>	
	<p>◎：計画以上の効果が表れている ○：おおむね計画通りだが更に力を入れて推進する必要がある △：計画通りにすすめるためには、今後取組内容や目標を見直す必要がある</p>

推進の柱 3

幅広い市民参加の促進、多様な主体の連携・協働の推進

<p>主な取り組みの 成果</p>	<p>柱3-1 幅広い市民参加の促進</p>
	<p>子どもの頃から地域と関わる場や機会が広がっています。 幅広い世代の人、障害のある人など様々な状況にある人の社会参加・地域活動への参加につながる取組が増えました。デジタル技術を活用した情報発信、開催形態等が広がりはじめました。</p>
	<p>柱3-2 多様な主体の連携・協働による地域づくり</p>
<p>地域と社会福祉法人・施設との連携が交流活動に加え、外出支援や食支援など地域での見守りや生活支援につながる取組に広がっています。障害事業所が様々な状況の人をつなぐことで、互いの持ち味を生かして問題解決する取組が生まれています。 企業やNPO法人、学校等との連携については、それぞれの特性を生かした多様な取組が行われています。</p>	
<p>柱3-3 幅広い市民参加、多様な主体の連携協働を促進するための環境づくり</p>	
<p>活動団体の立ち上げ支援、活動継続の援助や、支援制度利用促進に向けた周知の工夫など、支援機関による地域福祉保健活動の裾野を広げるための支援が継続実施されています。 市民活動推進基金（よこはま夢ファンド）への登録団体数が増加しました。</p>	
<p>課題 (必要な取組)</p>	<p>【柱3-1】必要な人に必要な情報を届けるためのSNS等も活用した情報発信のさらなる促進や、あらゆる世代の多様な人々が参加しやすい交流の方法や開催方法の工夫が必要です。 【柱3-1】青少年・若い世代も含む市民が地域とのつながりを持続的に形成、発展させていくための取組が必要です。 【柱3-2】住民・住民組織と地域にある社会福祉法人等の施設、企業、NPO法人、学校等の連携促進や、連携再開のきっかけづくりが必要です。 【柱3-3】地域活動の支援制度の利用促進や活動のノウハウの周知、活動団体、参加者同士がつながる交流の機会や場づくりが必要です。</p>
<p>市地域福祉保健計画 策定・推進委員会 意見</p>	<p>【柱3-1】ボランティア活動に関心を持ってもらえるPR活動に加え、地域活動に参加しやすくなるような開催方法の工夫や仕組みづくりが必要です。 【柱3-1】青少年の地域とのつながりを持続的に形成、発展させていく必要があります。 【柱3-2】地域住民とのつながりを大切に活動をしています。地域の方々と楽しい活動ができるように工夫していきたいです。 【柱3-2】子育て支援拠点のネットワーク事業を生かし、各区で子育て支援に関わる団体や施設と連携した地域での子育て支援の取組が展開されています。 【柱3-3】デジタル技術の活用を取り入れた情報発信が進んでいますが、ICTが苦手な人に対する丁寧な理解促進、技術支援が必要だと考えています。身近な地域でのスマホ教室開催は、これまで地域活動に参加しにくかった男性等の地域交流にもつながりました。</p>
<p>総合評価</p>	
<p>○</p>	<p>◎：計画以上の効果が表れている ○：おおむね計画通りだが更に力を入れて推進する必要がある △：計画通りにすすめるためには、今後取組内容や目標を見直す必要がある</p>